

## 第1回沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会 議事要旨

1. 日時：平成18年6月29日(木) 13:30～15:10

2. 場所：中央合同庁舎4号館10階  
公害等調整委員会 調停・仲裁・裁定室

3. 出席委員：平澤委員、伊集院委員、遠藤委員、長岡委員

### 4. 議事概要

#### (1) 分科会長の互選について

委員の互選により、分科会長に平澤委員が選出された。

#### (2) 評価基準(案)、項目別評価表(案)及び総合評価表(案)について

評価基準(案)(資料4)、項目別評価表(案)(資料5)及び総合評価表(案)(資料6)について事務局が今後の予定と併せて説明した。その後、それぞれの様式(案)や評価方法について意見交換が行われ、次のような意見が出た。

年に1回の評価に対して一年間の「実績」をまとめるのではなく、内部で日常的に短期の目標設定、細かい観点からの評価基準に基づきこまめに評価をしていくべきである。その結果をまとめた形の「実績」とするのが望ましい。

よりきめ細やかな管理を行い、それも評価対象とすべきである。マネジメントに対する工夫を行うことを期待する。

A, B, C, Dの評価の考え方について、それぞれを100点満点の25点ずつを配分するという考え方、又は達成度を見て大学における成績評価のように優・良・可・不可で判断する考え方(この場合、半分程度しか達成できていない場合はDとなる。)があるが、後者の優・良・可・不可方式で考えたい。

定量的な指標があまりないので、定量的な指標を設定することも今後考えていくべきである。

評価の際には能動的な業務か、枠組みがあらかじめ決まった受動的な業務かの判断が必要であるが、次回分科会で機構からの報告を受け、今後検討していきたい。

計画の段階で、何をA、B、C、Dと評価するのかという基準を決めておくべきであり、次年度に向けて検討したい。

長期的にしか結果が顕在化しないものについてはプロセスの部分が重要になってくるので、これをきちんと評価すべきである。

今後、業務の「数」でなく「質」を評価する指標を整備していく必要がある。

機構に対する理解を深め、適切な評価を行うため、現地視察の機会をとるとよい。

それぞれの様式（案）については暫定版として了承され、次回分科会における機構からの具体的な報告を受け、再度意見をかわすこととなった。

### （3）その他

今後の予定等について

次回分科会を7月に行うよう、日程調整することが確認された。

現地視察について、日程調整を行うことが確認された。

以上

（参考）現地視察について第1回分科会后、日程調整を行ったが、調整がつかなかったため秋に再度調整することとなった。

問い合わせ先

内閣府沖縄振興局新大学院大学企画推進室

電話：03 - 5253 - 2111（内線44417）